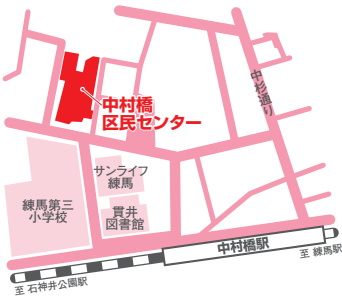


平成 25 年 4 月より 中村橋区民センター内に
「高齢者相談センター」開設!

高齢者相談センターって、どんなところ?

高齢者相談センター(地域包括支援センター)は、地域で暮らす高齢のみなさんを、介護・福祉・健康・医療など様々な面から総合的に支えるために、設置されています。これまで、貫井・向山地区を担当する「支所」は練馬区役所内にありましたが、地域の皆様に、より身近で便利にご利用いただくため、中村橋区民センター内での設置が決定しました。



気軽にご相談、ご利用ください!

自立して生活できるよう支援します

要支援 1・2 と認定された人は、介護保険の介護予防サービスを利用できます。支援や介護が必要となるおそれの高い人や、自立した生活をしている人などは、市区町村が行う介護予防事業を利用できます。



みなさんの権利を守ります

高齢のみなさんが安心していきと暮らすために、成年後見制度の紹介や、虐待の早期発見、消費者被害などに対応します。

お気軽にご相談ください

高齢のみなさんやその家族、近隣に暮らす人の介護に関する悩みや問題に対応します。介護に関する相談や心配ごと、健康や福祉、医療や生活に関することなども、ひろくご相談ください。



さまざまな方面から、みなさんを支えます

みなさんを支える地域のケアマネジャーの指導や支援のほか、高齢のみなさんにとってより暮らしやすい地域にするため、さまざまな機関とのネットワークづくりに力をいれています。



新年を迎えて

自民党
 練馬区議会議員 第五十九代議長
関口 かずお

- 常任委員会 区民生活委員会 委員
- 特別委員会 医療・高齢者等特別委員会 委員長
- 各種委員会 民生委員推薦会

ご相談は... **関口かずお 事務所**
 〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8
 Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>

赤レンガとコンクリート

東京駅が、百年の時を経て、開業当時の姿を取り戻した。

赤レンガにドーム型の屋根、白い窓枠、時計…。皇居と相対するこの瀟洒な建物は、一九一四(大正三)年の開業以来、この国の首都、東京とともにあり、その時を刻んできた。

設計した建築家、辰野金吾氏は、当時の日本建築界の重鎮であり、全国各地に数々の建築物を残しているが、東京駅の設計の際には、思わぬ苦悩をすることになったという。

辰野氏の建築物の特徴の一つは、レンガを使用することである。イギリス留学などで学んだ建築工学の知識を生かした彼の建物は、その頑丈さから、彼の名をもじって「辰野堅固」と称されていた。

しかし、当時の日本では、新しい建築資材としてコンクリートが使われ始めており、辰野氏のもとで東京駅の設計に取り組んでいた若手の建築家たちは、東京駅を最先端の建築物とすべく、コンクリートを使うことを主張する。レンガは、もう古く時代遅れなのだ。

一度は若手の主張を取り入れた辰野氏であったが、新しい資材としてのコンクリートの可能

性は認めていても、実績の少ない資材を使うことは、建築物に美しさとともに機能性や安全性を求めてきた自分の建築家としての信念にもとると、レンガを使うことを決める。

幾人もの若手が、彼のもとを去って行ったが、彼の信念は、開業から十年後の関東大震災で、その正しさを見せつける。多数建物が被災する中、東京駅はほとんど無傷で、被災者の避難所となったのである。残念ながら太平洋戦争の空襲で全焼してしまつたが、基礎と外壁は残り、今回の復元工事では、旧駅舎が持つ耐震性を強化するための免震工事のみ施したほどだという。

新しいものを積極的に取り入れることは、技術や制度の進歩には欠かせない。しかし、何事かを論じるときでも、長い間に築いてきた経験や実績を、まず否定することから始めるような、最近の風潮はいかがなものだろうか。

携わる人の信念に基づいて、真摯に造られたものは、時を経てもなお、その力を失うことはない。それは、建物でも制度でも同じであろう。辰野氏の生み出した、東京駅の基礎や外壁の

ように。

造った人たちの意思をおもい、冷静に評価し、今の自分たちは、それをどのように活かすのか、あるいは変えるのか。場当たりの方策ではなく、これこそが自分たちなりの信念だと、胸をはって、後世に残せるような、そういうものを、造っていくこと。それが、本当の意味で、時代を造ることになるのだと、おもつ。

久しぶりに、駅の外に出て、東京駅を眺めた。

赤レンガとドーム型の屋根は、最新技術によって、時間を取り戻した東京駅の、次の百年を見守り支えるに違いない、とおもった。

